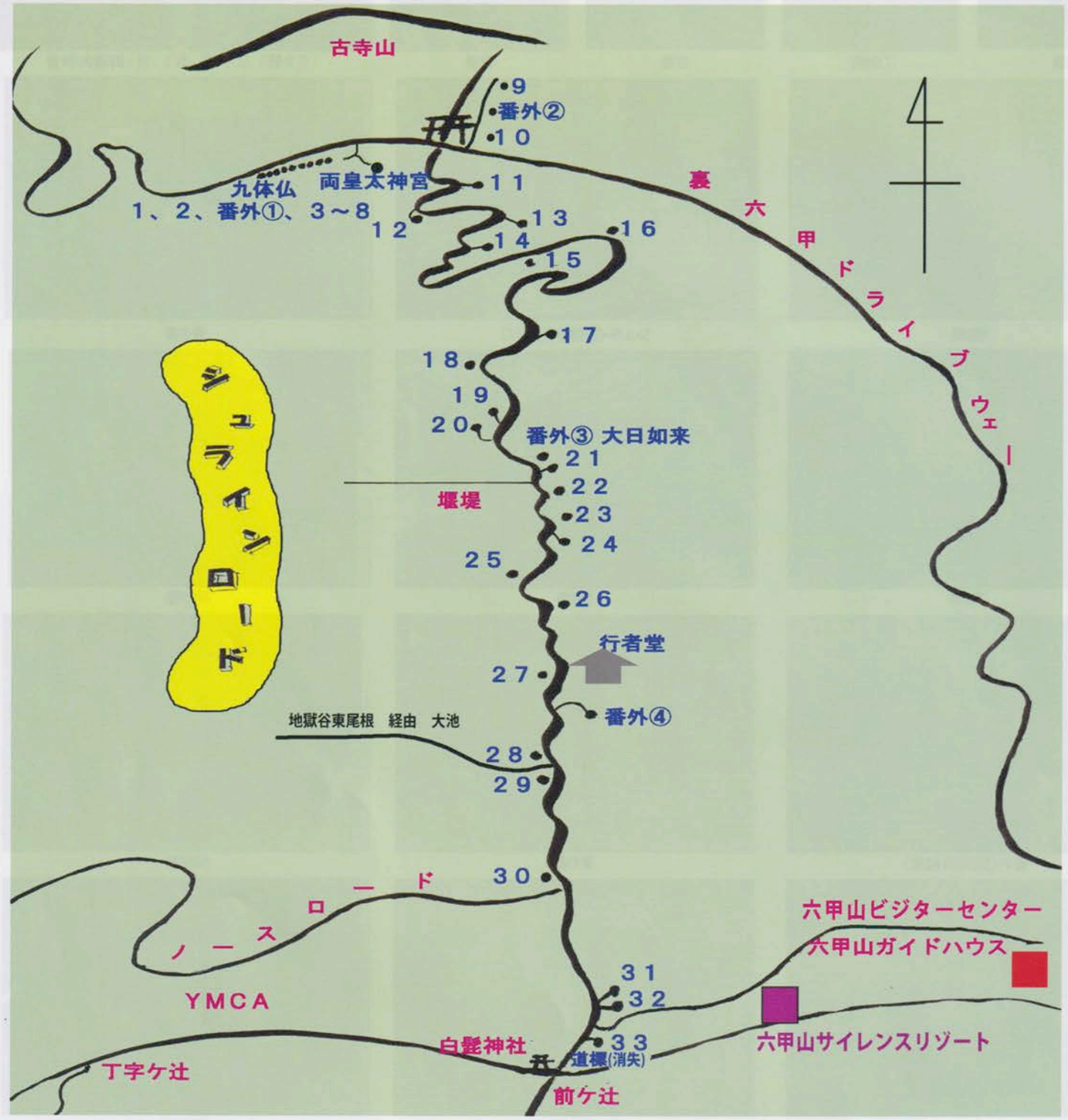
コアジサイ

野仏たちの佇むところ

コバノミツバツツジ



山の案内人の会

六甲山ガイドハウスのボランティアガイド

六甲山自然案内人の会

http://rokkosan.gotohp.jp/

参考文献

Shiki Video 『行者道の観音さま』

玉起彰三氏著『六甲山博物誌』 神戸新聞社出版

撮 影

青木 孝子、清水 孝之

制作

NPO法人六甲山の自然を学ぼう会

第9版 2022年3月31日

Copyright(C) 2006－2022 六甲山自然案内人の会

唐櫃古道 シュラインロードと野仏たち

シハイスミレ

シュラインロードと野仏の謂れ

六甲山上の前が辻を起点として、神戸市北区唐櫃へ行く道を唐櫃道、あるいは行者道と呼びます。六甲山の古道のひとつで、この道の特徴は、路傍にたくさんの野仏が佇み、また行者堂と呼ばれる祠（ホコラ）が残り、とても神秘的な道です。その道が開けたのは江戸時代中頃で、六甲越えと称され、北摂方面からは酒米や農林産物、灘方面からは海産物などが運搬され、神戸の海岸地方と内陸部を結ぶ経済の動脈でした。当時は牛の背に荷物を載せて、物資を運搬していたそうです。行者堂には役小角（エンノオヅヌ）、前鬼、後鬼、不動明王が祀られています。現在の石祠は唐櫃村庄屋の鍋屋多右衛門によって文化元年（１８０４年）に造り替えられました。石材は花崗岩で高さ１．６ｍ、菊花紋が彫られています。この紋は当時流行したアクセサリーだったそうです。裏側には四鬼（シキ）七兵衛夫妻の石像が彫られています。四鬼家は役の行者の子孫で唐櫃道の開拓者と伝えられています。野盗に襲われたり、事故で犠牲になった人への供養もかねて道中無事、商売繁盛を願って石仏が建立されたのが文政８年（１８２５年）だそうです。西国３３箇所になぞらえて観音様の石仏が安置され、その願主として地元の人々や丹波の杜氏、水車小屋の親方、兵庫の魚屋、五社の酒屋、三木の金物屋が刻まれています。石仏は３３体ではなく、３７体ありますが、これは善光寺、大日如来など４個の番外があるためです。また、トンネルやドライブウェー工事のために最初の地を追われ、９体が野仏の長屋のような石祠に強制的に集団移転させられ、現在９体仏と呼ばれています。

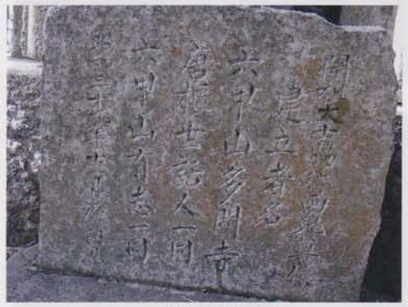
毎年８月２０日頃、地蔵盆の前に唐櫃の女性の方々が奉仕ですべての祠が清掃され、お花とお水が供えられます。この行者堂や石祠から神戸に居留していた外人ハイカーたちによって、シュラインの道と呼ばれ、今ではシュラインロードの名が一般的になっています。

どの石仏の観音様も笑みを浮かべており、今も昔も道行く人たちを暖かく見守ってくださっています。

（Ｓｈｉｋｉ Ｖｉｄｅｏ『行者道の観音さま』、 玉起彰三氏著『六甲山博物誌』より抜粋）

役の行者

祠内部（役小角、前鬼、後鬼、不動明王）



建立者名碑

行者堂

妙見塔　　常夜灯

道標（2021 年 2 月 20 日現在 消失）

九体仏（1番、2番、番外①、3～8番）

1番

2番

番外①

3番

4番

5番

6番

7番

8番

両皇太神宮

9番

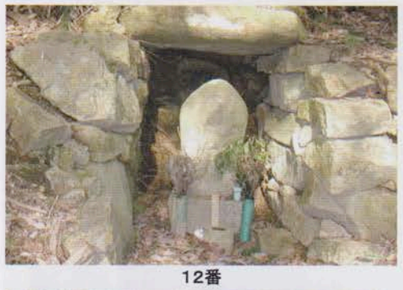
番外②

10番

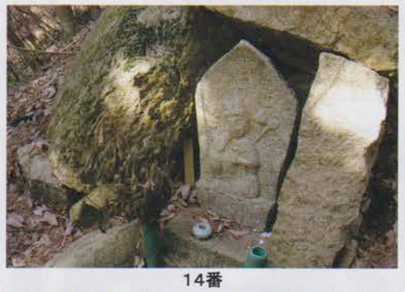
鳥居

シュラインロード入り口

11番


12番

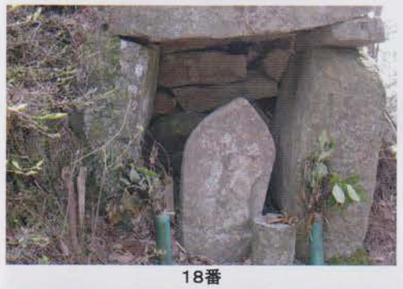
13番


14番

15番

16番

17番


18番

19番

20番

番外③（大日如来）

21番

22番

23番

24番

25番

26番

27番

番外④

28番

29番

30番

31番

32番

33番